

喜怒哀楽

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

CONTENTS

● 笑顔礼讃西東

もも句会 (岡山県・岡山市) 2~3

間森 坦 (兵庫県・神戸市) 4

● 詠み人スクランブル

《春に食べたいお菓子は何か?》 10~11

新潟ぶらり / 新潟ふるさと村 12

詠み人の『リレーエッセイ』 歌人 岡田幸生 16

4-5
Vol.91



▲「悲しみの秘儀」表紙や見返しも9種類のデザインがある

ここに響く言葉

今号より新潟県糸魚川市出身の批評家・随筆家 若松英輔氏の著書からここに響いた言葉を抜粋してご紹介します。

● 若松英輔 1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。2007年「越知保夫とその時代 求道の文学」にて第14回三田文学新人賞評論部門賞。2016年「叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦」にて第2回西脇順三郎学術賞を受賞。

かつて日本人は、「かなし」を、「悲し」とだけでなく、「愛し」あるいは「美し」とすら書いて「かなし」と読んだ。悲しみにはいつも、愛しむ心が生きていて、そこには美としか呼ぶことができない何かが宿っている。人生には悲しみを通じてしか開かない扉がある。悲しむ者は、新しい生の幕開けに立ち会っているのかもしれない。——『悲しみの秘儀』より

温古知新 ④

「菜根譚」 17

ようやく春めいてきました。前回ほど、どんどん新しいことに挑戦していく大切さを学びました。さて、今回は……。

学ぶ者は、段の兢業の心思有り、又段の瀟洒の趣味有るを要す。若し一味に斂束清苦なるのみならば、是れ秋殺ありて春生無きなり、何を以てか、万物を発育せん。

(学ぶ者は、自戒の気持ちを持って、また、拘りのない心が必要である。もし、ひたすら自分を戒めて、赤貧生活をするならば、落ち葉が散る秋のようで、芽生えの多い春とはならず、全てを活かすことは出来ない。)

自戒するばかりでなく、臨機応変、楽しみもあってこそですね。

真の廉には廉の名なし。正に貧となす所以なり。大巧は巧術なし。術を用うるは、乃ち拙と為す所以なり。

(本当に清廉潔白な人には清廉潔白という評判は立たない。評判を立てるような人は、実際は欲張りである。本物は本当にそ

うであることを証明しない。証明しようとするのは本物ではない。)

自ら主張せず、謙虚であることが第一歩、という事でしょうか？

欝器*は満つるを以て覆えり、撲満*は空しきを以て全す。故に君子は寧ろ無に居るも有に居らず、寧ろ欲に処るも完に処らず。

(欝器は中身を満たしてしまふと倒れ、撲満は溜まると壊されてしまふ。それゆえ、君子たる者は、「無」の境地に身を置き、物欲の世界は否定して、欠乏を善しとして完全を求めないことだ。)

完全に満たされたものはあとは倒れるだけ。常に上を目指す志が必要ですね。

*欝器：水をいれる器のこと。水が空のときは傾き、半分ほど入れるとまっすぐ立ち、満杯になるとひっくりかえるという。別名、「宥坐の器」。

*撲満：いっぱいになったら打ち壊す、の意。貯金箱のこと。

第62項から64項までをご紹介いたしました。時には自分を厳しく律し、謙虚に上を目指していくことが、良く生きるという事ではないでしょうか。そうあるよう、日々生活していきたいものです。 (古川久美子)

もも句会

代表 黒岩徳将様

(岡山県・岡山市)

去る3月19日、3カ月に1度の頻度で開催されている「もも句会」の春の句会にお邪魔しました。

この句会を牽引しているのは26歳の会社員、京都府出身の黒岩徳将さん。
 ※俳句甲子園に出場したが、悔いを残しつつ敗退。その後どう俳句を続けていけばいいのか暗中模索の状態が続いたという。自分と同じような迷子を作りたくないと言奮し、俳句甲子園出場者を中心に声をかけ、勤務地である岡山で高校生、大学生、大人の混じるこの「もも句会」を立ち上げ3年が経つ。
 ※俳句甲子園：愛媛県松山市で毎年8月に開催される高校生を対象にした俳句コンクール「全国高校俳句選手権大会」。

午前中は「後楽園」で吟行、13時か



▲まさに俳句活動家！黒岩徳将さん(左)と司会の竹中さん



◀「後楽園」から句会会場へは自転車で！

ら17時までは句会、その後の懇親会でも※袋回しがあるという俳句漬けの一日。遠くは東京や九州からの参加者がいるというから熱意の程がうかがわれる。吟行の最中も梅以上に会話に花が咲き実に楽しそう。
 ※袋回し：席題の一つで袋に書かれた季題で俳句を作り順に回していく遊び。

欠席投句も含めた163句のなかから20分程で7句を選び(特選1句並選6句)、選評を述べる。

本日の高得点から
啓蟄や救急箱の底にほふ 森

「救急箱の底にほふ」と「啓蟄」の取り合わせがおもしろい／救急箱は、どこか懐かしい独特のにおいがある／「底におふ」だと葉を探していたのだと思う。

春月と同じかたちに猫の死す 宇佐美
 三月月に近い春月が猫の形と同じと

いう気づき／死んだばかりだと感じた／死を軽く詠んでいる感じがしないのは詩情が生きているからか／中七と下五が「同じ形の死体かな」ではだめ？猫や犬である必然性はない。「猫」だとかわいくなっているリアルさがない／温度が伝わってくる感じが既にリアル／実際丸くなっている死なない／死後硬直する前に飼い主が丸く眠っているようにさせたのかな？
 作者：坂道で猫が丸くなって死んでいった実景。

雪解けや犬の目玉の輝きぬ 瀬崎

犬の目玉に映った輝きを詠んでいるのがいい／雪が解け思いつきり走れる季節が来たぞという野生の本能、生き物の喜び／自然の美しさや輝きだけではなく、生きていく気持ち悪さみたいなものを詠んでいる気がした。美しさを詠むのであれば目玉ではなく瞳とかきれいな言葉を選んだはず／採らなかつたのは景だけ見たら平凡だから／平凡さを脱却するなら「輝きぬ」を何とかした方がいい／「ぬ」だと光を閉じ込めた感じがする。「輝いて」とした方が光が放たれた感じになる。

くびすぢの脈を探しぬ花菜雨 竹村

首筋の脈が単体で詠まれるより「花菜雨」で茎が連想される／なぜそういうことをしているかはわからないが、鼓動を感じているところも読者に想像させる。

春光や口を開け続ける苦痛 川上

たぶん歯医者でのこと。春のひかりのなか睡魔に耐えつつ口を開ける苦痛／口を閉じられないときの苦痛をさらりとよく詠んだ／歯医者で断定できるとは思うが、断定したらおもしろくない。

ふらこの鉄くさき手をつなぎ合ふ 森

ふらこの句はたくさんあるが、鉄くさいというマイナスなイメージの中で「つなぎ合ふ」つながりが、現在の若者の生きにくさの関係性として新鮮に詠まれていると感じた／公園に集まった子どもたちが、鉄くさいけど、楽しかったから手をつないで帰ろう！というほっこりした感じに読んだ／「つなぎ合ふ」まで言わなくても「つなぎけり」でいいんじゃない？／けりでも通じるが「つなぎ合ふ」、とすることによって、ぎゅっと一つになるくらいな感じがでる／くどすぎない？／「つなぎ合ふ」の方が求め合う切なさがある／「つなぎ合ふ」だと、どちらもプランコからトンと降りて手をつないだ感じがする。

排水管ごぼと膿に穴があく 水口

膿がいい。感覚がすごい／ぼんやりした風景のなかで、見えない排水管の中を何かが通ったという気味の悪さ。

春よ春葉草版はふかみどり 畑

「春よ春」とすることで「ふかみどり」がより実感を持つ。効きそう！

おほかたのことは叶ひぬ鳥の恋 小西

「おほかた」と言われると、叶わぬことはなんだったんだらう、と思う。求愛、繁殖、自分の恋もどうだったのかな、読みが深まる。

刃に熱のあるかの如く春菊刈る 栗田

祖父と山にある春菊を切ることがあるが、熱があるようにサクッと切れる／刃に熱があるとよく切れるのか、比喻がわからなかった／如くだから実際熱はない。刃が熱を帯び燃やすように勢いがあるということ？／春菊がいき

ているのがわからなかった／春菊が可愛すぎるのかな。そんなに勢いがあっても近いよりはいい。これでバラを切るだったらやりすぎ。

遠足の子を追い越さぬように行く 都
追いつきたいが、しのびないから速度をゆるめたりと遠慮がち／海の道とか、場面設定をもってきた方が広がりがある。

慰霊碑の裏に転がる紙風船 大元

子どもがこっそり置いた紙風船が、風に飛ばされて今は裏側にある。

センプリ茶を飲みし薬学部の四月

大原

薬学部が効いている。いろんなものが育っている季節にセンプリ茶を飲んで、人間も始まるという滑稽だけど実感としてわかる／薬学を深めた感じではなく、まずはセンプリ茶を飲んで最初の講義で「これが薬になるんだよ」と聞いた新入生の感じがしている。

珈琲の豆を棄てれば春の風 安藤

バイト先で炒った豆を捨てる時、珈

琲の濃いにおいが春の風に乗って香った／部屋の中で春の風が吹く？／でも外にわざわざ捨てに行く？／豆じゃなく粉じゃない？／捨てるじゃなく棄てるだから、アウトドアっぽい。

作者：実家で猫除けのため庭に捨てていた(笑)。

卒業と都会のバスは簡単に来る 竹村

取り合わせに意表をつかれた。「来る」まで入れるのはどうかと思った

が、どんだんくる感じもありこれでもいいのかも／音について考えることができる。「簡単に来る」も俳句らしく読め

ば五音で読むこともできる。チュッパチャップスも同じく五音で読める。つまり俳句らしく読んであげること

も読み手として大事なんじゃないかと／字数ではなくて音で数えるということ？

／五音ではなく五拍。その辺はかなり冒険だと思うけど。

卒業を実感するときって卒業の日の登校の朝／私は卒業するとき全く実感がなかった。その後バスの中から花をつけている子たちを見て、卒業したんだと初めて実感がわいたの

で、都会で働いている人なのか／卒業する人とその人を見ながら、その読みなら採りたい。

「卒業す」じゃだめなの？

／卒業と都会のバスを並列で入れたかったんだと思う

／こういう書き出しの小説いいですね(笑)／これだけいろんな読みができるのは

どうなの？／句として限定されていないという意見と、

広がりがあったという解釈があるのでは。でもこんなに意見が出てこの句は幸せ(笑)。

卒業の日の不燃ごみ回収車 川上

燃える燃えない、いろんなゴミが出る。心の中も整理しなければいけない

／「不燃」と限定する効果はあるの？

／日常のリアリティは出る／「燃やせないもの」として、心残りがあるので

は？

箸樂し最後に蛤を食べへば 鈴木

去年の俳句甲子園で「町たのし浴衣の子らに道問へば」という句があった

が、作りとしてはそれと同じ。蛸でも浅蛸でもなく蛤ならわかる。箸が樂しんでいる、箸を使っている自分が樂しんでいるという2つの樂しさ。

作者：蛤はつかむときの感覚やつぶれるような感じが、箸を通じて伝わってくる。

どの音も春夕焼のさなかなり 竹中(け)

オカリナの半音下がる余寒かな 田中

こだはりの日だまりの中恋の猫 織田

春雷や歯ブラシと水やわらかく 坂口

臘夜やおモール海老を解体す 柴田

春霖を少しく混ぜる絵具かな 鈴木

襟首の産毛も白し春の風 阿部

春眠をふさぐ分厚き男かな 水口

うららかや服にかたちのある並び 竹中(ゆ)

友だちはひひなと空気清浄機 水口

海軍に音痴はおらぬ春一日 宇佐美

朝寝して触れたる豚の貯金箱 黒岩

麗らかやツアーツシャツ着る患者 大原

つちふるや一元札の柔らかし 宇佐美

夜桜に消えたる滑り台のうへ 森

たらの芽の^{*}サムズアップのごと光る 岡嶋

春風の物干し竿をすべりゆく 大元

米一つ拾い五つを落とす春 安藤

えの這い出してゆく春の霜 畑

★多くを語るより一句でも多くこの感性豊かな俳句を掲載したいと思った。

大学生を中心に最年少は高校一年生という本句会。暖かくも厳しく導く大人のまなざしの中、個性はそのままに育

まれていく。自論、推論、疑問、承認、反対、提案…と議論が止むことは

なく、個々人の俳句に対する真摯な姿勢と言葉と仲間に対する敬意、そして

熱量に驚いた。これを読まれた方の方の心にも、何かがぎゅと触れたはず。それは

あなたの中に依然として変わらないものがあるから。春は誰にでも何度

でも巡ってきます。(木戸敦子)



「卒業す」じゃだめなの？
／卒業と都会のバスを並列で入れたかったんだと思う
／こういう書き出しの小説いいですね(笑)／これだけいろんな読みができるのはどうなの？／句として限定されていないという意見と、

どの音も春夕焼のさなかなり 竹中(け)
オカリナの半音下がる余寒かな 田中
こだはりの日だまりの中恋の猫 織田
春雷や歯ブラシと水やわらかく 坂口
臘夜やおモール海老を解体す 柴田
春霖を少しく混ぜる絵具かな 鈴木
襟首の産毛も白し春の風 阿部
春眠をふさぐ分厚き男かな 水口
うららかや服にかたちのある並び 竹中(ゆ)
友だちはひひなと空気清浄機 水口
海軍に音痴はおらぬ春一日 宇佐美
朝寝して触れたる豚の貯金箱 黒岩
麗らかやツアーツシャツ着る患者 大原
つちふるや一元札の柔らかし 宇佐美
夜桜に消えたる滑り台のうへ 森



▲今後一人ひとりの活躍と「もも句会」の拡がりから目が離せません！

間森坦様

ひろし
(兵庫県・神戸市)

昨年3月、エッセイや思い出の写真、水彩画、俳句等を一冊の本『枯野』としてまとめられた間森坦さまにお話を伺いました。

Q 『枯野』をまとめられた経緯から

一昨年、金婚式を迎えた際に子や孫たちがお祝いの会を催してくれた。その夜、楽しいひとときを振り返りながら日記をつけていると、喜寿まで町医者が続けられた幸運と感謝で胸がいっぱいになった。何とか、気力のあるうちに自分史をまとめておきたいとは思ったが、どのようにすべきか考えあぐねていた。最終的には、かつて在籍していた慶應大学内科学教室の「聴診記」や医師会報に書き連ねた拙いエッセイや下手な水彩画、最近始めた俳句を入れた本にしたらどうだろうと、思うに至った。



▲安心して受診できるのもうなずける笑顔

Q それからはすんなりと?

初めての経験であり、どうしていいかわからなかった。喜怒哀楽書房で句集を上梓した親友の武内君に相談し、その結果序文までお願いした(笑)。謹呈するのは主に同級生の医師のため、論文も3編挿入。成人病や肥満症の予防、特定検診や特定保健指導に関する私見を載せたが、皆さんの感想では好評だったのでホッと胸をなでおろした次第。昔からケアレスミスの多い人間だったので、担当した昔さんは校正が大変だったと思う(笑)。

Q 好評だったのでね

お札の手紙やメールがたくさん届き、予想外の反響に驚いた。母校の慶應義塾の北里記念図書館からは史料にする旨の礼状があったり、内科の同窓会、姫路東高校の同窓会からも礼状をいただいた。ありがたい内容のものが多く、出版して本当によかったと思う。中には長文の手紙やメールもあり、自分の本よりそちらをまとめて本にしたいくらいだった。親しい友人の一人は「〇万円くらいかかったらう?」と言うので、「その1/3くらいだよ」と返事をしていただいた(笑)。

Q 昔から医者になろうと?

生まれは兵庫県南西部の佐用郡という過疎の町。雪もたくさん降り、工作でスキーを作ったり魚捕りをしたりと、自然の中で遊んでばかりいた。一番好きなのは天魚釣りだが、時にはうなぎも捕りも。餌をしかけておくと朝うなぎがかかっている、それが目覚まし



▲『枯野』表紙は大好きなフェルメールの模写

代わりにようなもの。油が少なくてもあっさりしてうまかった。父は林業に従事していたが、このまま田舎にいても将来的には食えないからと、親戚のところを下宿してそこで少しは勉強をするように。生物部に入ったが、その部にいた医者の息子が女の子に非常にもてたので、そうか医者になったらいいんだな、と(笑)。

Q それからは順風満帆に?

今思えば、医師になって53年、開院してから42年、よく働いてきたと思う。その間、自身が患者さんを診てきたと思っていたが、私が患者さんに支えられてきたのだと感じる。ご存知の方も多いと思うが、今は亡き元宝塚歌劇団の男役「白バラのプリンス」こと春日野八千代さんも、30年以上来院してくられた。震災で診療所の入ったビルが解体されるなど、痛手は大きかったが、その時も励ましたり、公演にご招待くださったりと親切にしていた。これはほんの一例にすぎないが、患者さんに人生の示唆と教訓をいただいていた。今、診療の多くは息子に任せているが、まだ私の患者さんもある。まあ、最近では「先生こそお大事に」なんて言われているけど(笑)。震災で人生計画

は狂ったが、今のところ食べることに喋ることは達者なので、役に立てるうちはお役に立ちたいと思っている。

▼診療室の机の上で多方面よりいただいた手紙類を拝見



▲医師会ニュースに掲載された間森さんの水彩画

★本のお手伝いをしてる時は、まだ間森さんにお目にかかってはいなかったが、担当の昔から「こんなに楽しい方なんですよ」と人となりを聞いていたので、その愛すべきキャラクターと対峙して納得!ご本人は「出来が悪かったが、いい友達に生まれみんなに教えてもらいながらやってきた」と謙遜するが、同級生からも「まもちゃん」と慕われ人気者であることが伝わってきた。「まもちゃん」が、今後、聴診器に絵筆と鉛筆を加えて、さらに豊かな人生の花を咲かせられることを願っています。(木戸敦子)

投稿作品

川柳

※誌面の都合上、300 作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま 1 作品、先着 300 名様までとさせていただきます。 今回の投稿作品数は、270 でした。
※しめきり 2017 年 5 月 16 日(火)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 思い出す愛の小道具赤い薔薇 関本 守(新潟県)
- 2 追伸に本音を洩らす母の愛 野田明夢(新潟県)
- 3 またひとつ余白がだんだん狭くなる 守屋高雄(岩手県)
- 4 うまいなあケイタイ耳に中座する 石原 岳(群馬県)
- 5 トランプのババを引くのは誰だろう 橋本世紀男(東京都)
- 6 医師の言うそれも加齢にムツとす 原 崇雄(埼玉県)
- 7 強引な見切り発車は事故の元 細川光子(栃木県)
- 8 老後にと貯めたお金が使えない 山口千鶴子(東京都)
- 9 お正月孫に教える箸持つ手 大久保アヤ子(東京都)
- 10 露地裏を目玉に廻るバスツアー 木村誠一(神奈川県)
- 11 会いたい人はもう会えぬ石を蹴る 小山恵美子(大阪府)
- 12 終活に心置きなくタクト振る 長谷川庄二郎(千葉県)
- 13 のんびりと委ねて病なおす年 大橋絵代(千葉県)
- 14 大国とは了見狭き国のこと 小林七重(新潟県)
- 15 ボウリング楽しくプレー病み付きに 久保寿雄(北海道)
- 16 糸口を探す役目も親心 鈴木義雄(福島県)
- 17 つよがりをいってくつべら杖となり 山口静一(東京都)
- 18 チキンカレー平和な顔が寄ってくる 木村洋一(新潟県)
- 19 身勝手な願いもあつて絵馬の春 小石澤英夫(東京都)
- 20 今大事時間大事に使おうよ 松田義登(福岡県)
- 21 「加齢です」それならできるにわか医者 和崎治人(山口県)
- 22 福引や一度はしたき驚掴み 島 松柏(宮城県)
- 23 時たまに弾む夕餉を妻という 田澤 宏(新潟県)
- 24 久しぶり夫にせがむ貼付葉 山崎一嘉(愛媛県)
- 25 凶と出た並んだ列は恋みくじ 奥那於子(大阪府)
- 26 曾孫の成長見たし生きる欲 岡本邦子(福岡県)
- 27 孫の供お子様ランチお猪口付き 近藤富夫(東京都)
- 28 高齢の目盛が揺れる長寿国 目黒豊光(福島県)
- 29 甘食はおっぱい 二個でワンセット 丸山芳夫(東京都)
- 30 萩焼きに紅梅コラボほほほのほ 松田重信(埼玉県)
- 31 梅早やし常磐道に陽の恵み 林 克(福島県)
- 32 ゆたんぼや羊一匹づつ増ゆる 平山千江(岩手県)
- 33 わかるかなワカリマセン四月馬鹿 阿部 至(埼玉県)
- 34 長く生き未だ亀鳴くを聴かざりし 井原毬子(東京都)
- 35 老いるとは生きることや草萌ゆる 大谷 茂(埼玉県)
- 36 星空の布陣の変はり寒の明け 川口 襄(埼玉県)
- 37 告白の半ばで目覚め春の夢 高崎登喜子(東京都)
- 38 豪華なる雛二人の姉のもの 檜山とり子(東京都)
- 39 死を拾ひ生を捨つるや寒椿 佐々木宗嗣(新潟県)
- 40 シクラメン待ち合ひのこむ蘭科医院 竹本美美子(新潟県)
- 41 雪高の上に命のななかまど 菊池東一(北海道)
- 42 春炬燵地酒を包む古新聞 津田忠彦(岡山県)
- 43 それぞれの春のあつまる盆栽展 重原 昇(新潟県)
- 44 春菜のせわらべ歩ませ乳母車 三津木俊幸(千葉県)
- 45 妻娘孫娘から夫々のチョコ 白松いちろう(千葉県)
- 46 身の裡の鬼は払へず年の豆 関山恵一(神奈川県)
- 47 東京に残るやさしさ大寒波 岩田 信(神奈川県)
- 48 枝々に羽ふくらませ寒雀 水落重式(新潟県)
- 49 早口のリズムミカル春とぞ思ふ 有坂馨園(福島県)
- 50 持病まづいたはり合ふや初電話 宮宅芳子(岡山県)
- 51 手を打って子供喜ぶ春の雪 佐野 繁(静岡県)
- 52 海鳴りや宙に舞ひ飛ぶ浪の華 上村元義(神奈川県)
- 53 老いるにも器用不器用躑躅かな 内河邦久(東京都)
- 54 大寒や水面に揺れるスカイツリー 松尾らん(東京都)
- 55 ぐいぐいと夢の一字風あがる 阿部澄江(宮城県)
- 56 鶯の一声山を深くせり 阿部徳夫(宮城県)
- 57 春場所や新横綱の決め手技 青木日出男(群馬県)
- 58 雪國に字の名いくつ遅き春 小島岳青(新潟県)
- 59 おりてこい高く届かぬ春の星 緑川慎男(埼玉県)
- 60 京料理小箱の中に春の色 天野輝子(東京都)
- 61 今朝も遠くへ遠くへ一機飛び去る 白木和子(東京都)
- 62 なにごとも無き世のやうに彼岸来る 近藤薫也(千葉県)
- 63 花よりも実を愛でし紫式部 西條公雄(埼玉県)
- 64 平成の汚点の一つ福島忌 山崎吉晴(群馬県)
- 65 百歳へ曾孫の手紙建国日 井上静夫(栃木県)
- 66 豆あふる大枘かかへ福は内 古川正栄(千葉県)
- 67 寒月夜一字も読めず寝かれぬ 中嶋清子(佐賀県)
- 68 繕ひを拒むジーンズ雪解風 神 一男(静岡県)
- 69 五年より三年連用初日記 佐野和彦(静岡県)
- 70 石仏の隙なく濡れて初桜 小澤円梨(静岡県)
- 71 手の甲に試す新色春時雨 吉里ひとみ(東京都)
- 72 平和木瓜七〇年を千年に 岩村 昇(神奈川県)

俳句

- 73 立春の空気を待つや象の鼻
浦橋渴雪(兵庫県)
- 74 火の山に光る残雪チヨコが来る
坪田勝秀(鹿児島県)
- 75 静寂にうもれ清しき水芭蕉
堀田寿美子(北海道)
- 76 竹の秋長野の人に出す手紙
白戸麻奈(東京都)
- 77 除夜の鐘一念天に通じさす
片山茂子(埼玉県)
- 78 義理チヨコも無駄ではないよ心寄す
阿部幸子(宮城県)
- 79 鳥風や鳥インフルはコケケッコー
宇都木安子(東京都)
- 80 滔々と千曲川は在りぬ花林檎
鈴木清子(埼玉県)
- 81 草餅に母へ思い重さねけり
青木延子(埼玉県)
- 82 ビバルディどの窓からか絮のとび
磯部 力(新潟県)
- 83 雛祭り春雪降るもおもてなし
杉村美保子(岩手県)
- 84 山の峰夕日に染まる残る雪
田中恵美子(山形県)
- 85 庭隅に紅梅香る一トところ
杉原明子(静岡県)
- 86 バス停に待つ足元に春一番
石尾曠師朗(東京都)
- 87 単線の車窓の景や春の雪
中田文子(大阪府)
- 88 春一番はじき合ひたる絵馬の列
田中 昶(鳥取県)
- 89 四五通の一度お酒をとの賀状
湯浅芳郎(岡山県)
- 90 人住まぬ狭庭に生きたる路のたう
堅田秀子(東京都)
- 91 安否訪う子のスケジュール春匂う
菅原キイ子(宮城県)
- 92 稲花氏の生き方眩し多喜二の忌
富樫和子(山形県)
- 93 夕日押す上り列車の春シヨール
二瓶邦枝(埼玉県)
- 94 ないがままに生きたる禪語や冬の寺
邑橋節夫(兵庫県)
- 95 春うららじいじ届託なきごとく
川嶋法子(東京都)
- 96 春立つや歩幅大きく意識する
日名子春実(群馬県)
- 97 宿命に耐えてほっこり冬牡丹
鏡たか子(山形県)
- 98 短日の一灯で足る家多し
井上氣海(広島県)
- 99 寂しさは餅と小豆で流し込む
弓削規子(千葉県)
- 100 フクシマのあのフクシマの春憤怒
福岡 悟(東京都)
- 101 耕しの鍬おき妻と黙持す
黒澤正行(福島県)
- 102 職場での序列生きてる花見の座
長峰正晴(千葉県)
- 103 天皇と齢おなじく葉喰
中岡昌太(神奈川県)
- 104 初音聞き歩みを止める峠道
古谷 力(東京都)
- 105 頬撫づる風佐保姫の気配かな
大阿久雅子(埼玉県)
- 106 しばらくは手足さみしき衣更え
坂元正憲(東京都)
- 107 月の夜の白梅香る寺領かな
津布久信雄(東京都)
- 108 春場所や国中見てる土俵入り
寺内 佶(埼玉県)
- 109 哲学に似合うドイツ語初ガイド
居原田連星(大阪府)
- 110 カラフルな傘差し下校春の雨
大橋恒次(新潟県)
- 111 大人の魂来てあそびませ水鳥と
小坂優美子(富山県)
- 112 華やいだ気分で薄着余寒かな
河野静子(埼玉県)
- 113 争ひの絶えぬ中東冬銀河
山岸伊久雄(東京都)
- 114 春風や手作りパンの販売車
一瀬正子(埼玉県)
- 115 箆に干す輪切の大根反り返り
金子範子(高知県)
- 116 空の青そのままがいい冬すみれ
井田由利子(宮城県)
- 117 踏まるるも悟りのうちや仏の座
吉村充治(埼玉県)
- 118 金色の蕊やはらかき冬牡丹
成田節子(山形県)
- 119 ラーメンでめて全快春の風邪
望月哲土(東京都)
- 120 春立つや膝が笑って歩道橋
服部八重子(東京都)
- 121 施設の友日に日にとぎれ春寒し
藤井春三(埼玉県)
- 122 自転車をドミノ倒しの春一番
中村康浩(福岡県)
- 123 卒業や少女娘に変身し
濱田イサオ(福岡県)
- 124 春一番気遣いくれし友のいて
岡村君枝(茨城県)
- 125 仄かなる冬菊亡夫の供花とせん
青木ケン子(埼玉県)
- 126 折鶴をそへて懐紙の桜餅
宮崎敏昭(埼玉県)
- 127 寒の芹光混み合ふ堰の水
石井一枝(埼玉県)
- 128 帳面といへば笑ふ子春立てり
梶 鴻風(北海道)
- 129 大根を干す婆の背の低さかな
本間 進(新潟県)
- 130 見舞来る友白梅の香をだき
大塚徳子(埼玉県)
- 131 南風午後は北風春を呼ぶ
田野井一夫(栃木県)
- 132 初春や老にもひとつ夢のあり
本間ミネ(新潟県)
- 133 傷舐める朝の孤景や春の猫
村山徳英(埼玉県)
- 134 何とまあ舗道を起す逢かな
油谷博子(兵庫県)
- 135 眼わずらひ春一番の置土産
大場岬月(長野県)
- 136 今頃は黄色が主役安房の春
青木凉子(埼玉県)
- 137 春宵や人疑はぬ猫とある
増本和子(大阪府)
- 138 政権の崩壊夢見四月馬鹿
齊藤安弘(神奈川県)
- 139 寒牡丹菰に陽射しの匂いあり
村田吉雄(東京都)
- 140 亀鳴くや二千円札抽出しに
今井勝子(新潟県)
- 141 冬夕焼ライオン橋の勇姿かな
中山日出子(大阪府)
- 142 日の匂い嬰兒の匂い東風渡る
早乙女文子(埼玉県)
- 143 薄氷や医師の覗きし心電図
金子よし子(新潟県)
- 144 春愁やしネマ娘と見て別れ
中澤寿美(神奈川県)
- 145 湯の町や鶯笛を聞きながら
佐藤 信(神奈川県)
- 146 春一や乙女の髪を引き回す
中野勝子(鹿児島県)
- 147 杉の茶屋有りし昔や観梅行
星 一子(神奈川県)
- 148 ふんわりと白髪なびく春の風
菅原茂子(宮城県)

- 149 寒中に咲く水仙のいとおしさ
長谷部喜代子(大阪府)
- 150 露味噌や辿り着いたや母の味
田野倉訓郎(東京都)
- 151 口遊むおぼろ月夜に誘われて
池田 岬(埼玉県)
- 152 この冬の寒さにたえた玉ネギの辛
苦島で見る 林 玉子(長野県)
- 153 酒蔵の杜氏らのうた星牙ゆる
浅野信廣(宮城県)
- 154 子雀の集いの先に新芽あり
田中こづえ(北海道)
- 155 決断の一分の迷ひ春一番
大窪美代子(大阪府)
- 156 単線の始発列車や風花す
吉田律子(新潟県)
- 157 豪雪の一雨に鳴く梁余寒
菅井文男(新潟県)
- 158 ストレスを一杯ためてる吊し柿
岩崎弘舟(岡山県)
- 159 遠き日の九九の居残り寒茜
山田富朗(埼玉県)
- 160 筆圧のつよき癖字や大試験
白川 博(新潟県)
- 161 新たななる春の訪れ足るを知る
中川義彦(新潟県)
- 162 春の夜の消えぬ灯りや夫婦酒
仁藤ひろし(埼玉県)
- 163 梅の香の杜の近道通りやんせ
松前邦広(千葉県)
- 164 無器用に齡重ねて露の臺
岡野智恵子(埼玉県)
- 165 味噌玉や看終えし人の音しほみ
高橋エミ(山形県)
- 166 低き山高き山にもお元日
鈴木蝶次(宮城県)
- 167 朧夜や越後の味に枳一杯
有田俊一(埼玉県)
- 168 ばあちゃんもがんばりますと鳥雲に
高垣勝代(大阪府)
- 169 悲しみの手に焼香や別れ霜
清まさじ(静岡県)
- 170 鶴帰る紺碧のそら斜にして
椋本望生(大阪府)
- 171 コーヒーの落つるもゆるり目借時
若月理依子(新潟県)
- 172 揚雲雀ピチピチパーと聞こえけり
嶋田きよ子(奈良県)
- 173 蒼い海歲月呑んで羅漢泣く
木村 舂(山形県)
- 174 幼の手虹展げたりひなあられ
清水君江(埼玉県)
- 175 青空に伸びる桜枝のシルエツト
増田公代(東京都)
- 176 色紙の舟にいたたく雛あられ
本庄準也(埼玉県)
- 177 三月やさざなみ寄せる胸の内
石川郁子(埼玉県)
- 178 はかなくも咲きつづけてよ枝垂梅
沖 惇子(大阪府)
- 179 蟬時雨父母思い墓参する
五味田幸夫(東京都)

短歌

- 180 キャラクター「カセ」を加えたミ
ステリーエログロまぶして視聴率
揚げ 北澤実夫(東京都)
- 181 リハビリに励み明日への希望持つ
友の文よみ胸熱くする 関原幸子(東京都)
- 182 コンビニに人待ちおれば風花の西
より舞いきてわが身を包む 土屋喜雄(山梨県)
- 183 境界線雨どいかけてうらの男あな
おそろしや母家守らにや 佐伯セツ子(香川県)
- 184 健やかにあればあるほど苦しみも
ありてこの世は成り立っている 寒川靖子(香川県)
- 185 柚子実らずちよつこらちよいとと
いふことばふときこえくる父一周
忌 安部 哲(新潟県)
- 186 亡父も来しチャップリンの宿富士
屋なり八十路の身体娘にささえら
る 高須 孝(愛知県)
- 187 融け落ちシデブリの無惨なる姿六
年も経てようやく掴む 桑原謙一(群馬県)
- 188 魅せられしむらさきラピスのイヤ
リング鏡に写す喜寿のほほえみ
峯岸信子(東京都)
- 189 雪の峰ゆつくり離れ満月は直牙え牙
えと合掌のとき 田中豊恵(新潟県)
- 190 春一番吹けば県下一周駅伝の号砲
後ろにタスキが走る 濱崎祥子(鹿児島県)
- 191 風さわぐ桜の如く散りゆきぬ母の
記憶の片らをたどり 合田浩子(茨城県)
- 192 誕生日祝福される歳でなし 友の
便りに心温もる 久本にい地(岡山県)
- 193 底冷えも忘れさせるや二月の陽洗
濯物の済みて憩える 高橋登志子(新潟県)
- 194 宇宙より眺むる地球はひとつなり
何故に争う民と民とが 野木宗信(奈良県)
- 195 アーネスト・サトウの明治維新読
み平成総理役者に見えて 早坂紘司(北海道)
- 196 若い日のようにいかぬを悟る日々
ひとつ見つけたりオンリーワン 小川 陽(大阪府)

こちらの写真を見て詠んでいただきました。

 (写真提供：中川 肇さん)

- 204 四次元へお誘い申す謎の窓
松田重信(埼玉県)
- 203 野の花も花屋の花も皆同じ力の限
り今を生き継ぐ 渡部美代子(山形県)
- 202 譲り葉の若葉の紅き葉柄は己の強き
意志示すよに 早坂保文(宮城県)
- 201 しだれ梅顔近づけば馥郁と老の心
を満しくれたる 西山知子(岡山県)
- 200 はじけゆく梅のつぼみのすさまじ
さ日だまりに立ち想う青春 島田實貴男(群馬県)
- 199 天筆と竹打ち祭りほのお舞う小正
月行事寒さ忘れる 大島居牧子(東京都)
- 198 家あれど帰れぬ福島この間に夫妻
は歳八十越えたと 安田芳江(茨城県)
- 197 いさかいも不信も夢かまぼろしに
やがて壊れて夫宇宙人 岩崎令子(大阪府)

- 205 回らんと個性の主張カザグルマ
吉田加代子(新潟県)
- 206 まわり方に個性ありけり風車
井原穂子(東京都)
- 207 よく廻る風車から売れてゆき
石原 岳(群馬県)
- 208 焦らずにゆっくり生きやう風車
高崎登喜子(東京都)
- 209 なんじゃこれ目がまわりそう風車
橋本世紀男(東京都)
- 210 流されぬ孤高の友や春一番
津田忠彦(岡山県)
- 211 風車五色七彩廻りをり
三津木俊幸(千葉県)
- 212 幽界は餅あみのうへクレマチス
鈴木岑夫(千葉県)
- 213 風車風を売らないものもあり
水落重武(新潟県)
- 214 春一番きりきり回れ風車
関原幸子(東京都)
- 215 顔見せてちょっと止まってほほえんで
阿部澄江(宮城県)
- 216 風車生涯現役いちにさん
阿部徳夫(宮城県)
- 217 風車超過勤務の発電機
青木日出男(群馬県)
- 218 風を受けて喜怒哀楽の風車
天野輝子(東京都)
- 219 風車風の吹くまで昼寝かな
近藤薫也(千葉県)
- 220 廻らない二個は売れない風車
山崎吉晴(群馬県)
- 221 これなアに老眼ルーベじつくりと
佐伯セツ子(香川県)
- 222 春浅し何やら痛の隠れ気味
千代田俳徒(東京都)
- 223 宇宙へは一番に飛ぶ春の風
神 一男(静岡県)
- 224 臍曲がり回らぬものも風車
佐野和彦(静岡県)
- 225 幼児のこゑ殖やしたり風車
小澤円梨(静岡県)
- 226 そのあんななせみな回ってるのに
小山恵美子(大阪府)
- 227 春うらら眠り始める風車
長谷川庄二郎(千葉県)
- 228 もう少し風が欲しいと風車
片山茂子(埼玉県)
- 229 メルヘンの匂づくり誘う風車
宇都木安子(東京都)
- 230 動かぬと決めし二人の風車
有田裕子(北海道)
- 231 金網の数多つばきは風車
鈴木義雄(福島県)
- 232 風車止むれば聞こゆ彼の心
菅原キイ子(宮城県)
- 233 風車群回らぬ二つ風おくる
富樫和子(山形県)
- 234 はたらきをやめていやされ風車
北野耕兵(千葉県)
- 235 かけまくも人間なんて春の闇
福岡 悟(東京都)
- 236 知恵ひとつ殖す赤子よ風車
中岡昌太(神奈川県)
- 237 かざぐるま好みの風を待つもあり
大阿久雅子(埼玉県)
- 238 二つだけへそまげ止まる風車
浅海和代(東京都)
- 239 用意ドン知らず眠っている風車
寺内 佶(埼玉県)
- 240 いい風をとらえて渡る人生訓
濱崎祥子(鹿児島県)
- 241 露店秋風水子の好きな風車
居原田連星(大阪府)
- 242 眼科医が示したまふた風車
合田浩子(茨城県)
- 243 酉年は風がまわってトリこめる
和崎治人(山口県)
- 244 足止めてこれは何かと風車
河野静子(埼玉県)
- 245 児の持ちて笑顔で走る風ぐるま
高橋登志子(新潟県)
- 246 風立ちてまはる祭の風車
成田節子(山形県)
- 247 風の止む夫婦風車の小春かな
藤井春三(埼玉県)
- 248 風に舞う夜店の華は疲れぎみ
奥那於子(大阪府)
- 249 回らねば四つ葉の羽ぞ風車
梶 鴻風(北海道)
- 250 風車吾子の手足の動きかな
油谷博子(兵庫県)
- 251 動かざる心のままに動く人
大場艸月(長野県)
- 252 いつまでも愛生みだせる風車
齊藤安弘(神奈川県)
- 253 風車廻りそびれている私
早乙女文子(埼玉県)
- 254 見つめあう二人の時間止まったの
中林恵子(大阪府)
- 255 廻り初む風を見るなら風車
中野勝子(鹿児島県)
- 256 回らぬとふんばっている頑固者
目黒豊光(福島県)
- 257 同窓会ふつと佇んだ君と吾
田中こづえ(北海道)
- 258 伝染の花粉見つける新風車
菅井文男(新潟県)
- 259 もったいない公民館に持って行く
岩崎 弘舟(岡山県)
- 260 それぞれの風待つところ春の空
有島和子(東京都)
- 261 春風になびいて欲しい意地ひとつ
小川 陽(大阪府)

- 262 風うけてそろそろ舞おうお隣さん
岩崎令子(大阪府)
- 263 春めくや暮敵はいま空を見る
杉浦俊雄(静岡県)
- 264 ねえあなたひとりいじはりどうしたの
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 265 風車我も元気な風欲しい
松前邦広(千葉県)
- 266 みな回る俺は回らぬ天邪鬼
安田芳江(茨城県)
- 267 どうしたの一緒にいるよ風車
高垣勝代(大阪府)
- 268 壁にかけぐるぐる廻る風ぐるま
清まさじ(静岡県)
- 269 泣いた児も指差す赤い風車
椋本望生(大阪府)
- 270 たんぼぼの絮はここから入れません
山中たい子(大阪府)

●俳句・川柳募集!!



(写真提供：中川 肇さん)

右の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(二句)をお待ちしております!

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございます！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎俳句部門大賞

75 しぐるるや明日売る牛の顔を拭く
岡村君枝(茨城県)

・これ迄育てて来た牛との別れ。せめて顔だけでもきれいにして…の親心に感動しました 三津木俊幸(千葉県)・犬と同様で牛は涙を流しているのを君枝さんは知っている。それで自身の心の涙を拭いているのです 青木日出男(群馬県)・哀愁に満ちた風景が浮かび感動しました 木村誠一(神奈川県)・牛の顔を拭いてやりながら明日は別れなければならぬさみしい気持ちひしひしと伝わってきます 杉原明子(静岡県)・以前実家でも牛を飼っていました。亡父の姿そのものです 高橋エミ(山形県)・競りにかけられる牛も育てた人も同じ。別れの悲しさを知っています。子牛が何度も鳴きながら父と坂を下って行った日のことを思い出しました 高垣勝代(大阪府)・丹精込めて育てた牛を売る切なさ悲しさに牛の顔を拭く優しさがにじんでいる 清水君江(埼玉県) ほか

1 潮鳴りの他は聞こえず冬銀河
川口 襄(埼玉県)

・作者同様海のない埼玉県に住んでいるが、それだけに想いを寄せる事も多い。句に詠まれた情景が鮮明に頭を過ぎるのだ 吉村充治(埼玉県)・真暗な海岸に立って何を考えていたのでしょうか 宮崎敏昭(埼玉県)・満天の星空が臉に浮かびました 石川郁子(埼玉県) ほか

10 人生の余白まだあり初暦
阿部徳夫(宮城県)

・余白まだありにささやかな希望が感じられさわやかで共感できました 宮宅芳子(岡山県)・この句で元気が出ました 坪田勝秀(鹿児島県)・前向きな所が良いです 堀田寿美子(北海道)・自分の齢と重ね合せて 中岡昌太(神奈川県)・今年はどうのように余白を埋められるのか、希望が感じられるすてきな句です 小坂優美子(富山県) ほか

◎短歌部門大賞

134 ひっそりと落葉散りしく無言館戦没
学徒の絵の鎮まれり
関原幸子(東京都)

・私が無言館を訪ねた時が晩秋、戦地に散った若者達の絵が心にしみたひとときだった 松田重信(埼玉県)・戦時中に青春がありました。胸をつかれました 檜山とり子(東京都)・戦後学徒の絵が無言館に並べられ、あの頃を思い出します 浅海和代(東京都)・絵筆を持つ手に銃を持つことを強いられた学徒の無念に共感されている 久本にい地(岡山県) ほか

139 教師まで菌つけて呼び差別する原
発事故は人災なるぞ
黒澤正行(福島県)

・大学で何を勉強してきた？親の顔が見たい 石尾曠師朗(東京都)・あつてはならない最悪ないじめだと思えます 田中豊恵(新潟県)

153 子どもらの虐待の報読むたびに憶
良の歌の何と責し
山田楽山(埼玉県)

・どうしてこんな時代が来たのでしょうか？みなさん同じ気持ちだと思います 二瓶邦枝(埼玉県)・かなしい記事の中でも特に母性不在を思う 岩崎令子(大阪府)

◎川柳部門大賞

181 トランプのきり方次第明と暗
宇都木安子(東京都)

・最新のニュースをうまくまとめています 木村洋一(新潟県)・トランプ大統領の「つぶやき」や「大統領令」に振り回される世界。「明」より「暗」の不安が強い。不安定な世の中にならぬことを祈るのみ 桑原謙一(群馬県) ほか

167 赤飯で祝いたくなる今日の無事
長谷川庄二郎(千葉県)

・事故でも免れたのでしょうか？とにかく良かったですね 鏡たか子(山形県)・忙しい毎日の今日この頃。一日一日が無事に過ぎて欲しい、そんな気持ちが伝わります 鈴木蝶次(宮城県)

172 古い二人同じ話題の繰り返し
守屋高雄(岩手県)

・我が家も同じ。同感です 井上氣海(広島県)・良く同じ事を話しています 松田義登(福岡県)・私たち老夫婦も同じです。同じ話を笑いながら繰り返してその日一日を楽しんでいますから！ 田澤 宏(新潟県)

◎フォトイック



※今回、大賞はありませんでした

195 ボクだってホラ出来るだろシャボン玉
長谷川庄二郎(千葉県)

212 ファンタジーで終る一年喜怒哀楽
有田裕子(北海道)

223 短日や予期せぬことの多かりき
井田由利子(宮城県)

224 初夢やまことしやかな宇宙旅
佐藤儀式雄(北海道)

230 どこからかおもちゃのチャチャチャ
しゃぼん玉 寺内 侑(埼玉県)

235 子と吹けば吾も童心シャボン玉
大阿久雅子(埼玉県)

238 しゃぼん玉ジンタの曲が流れる
濱崎祥子(鹿児島県)

◎他にも

20 幾山河越えて米寿の初明り
鏡たか子(山形県)

31 ぶっ叩く津軽三味線冬怒涛
三津木俊幸(千葉県)

64 あやとりを孫におしへる日向かな
片山茂子(埼玉県)

77 初明り九十歳の未知を踏む
堀木和子(大阪府)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

Q

前回のアンケート
あなたが食べたい春の
お菓子は何で
すか？



◆さくら餅

- ・何と言っても桜餅です
大谷 茂(埼玉県)
- ・春が来たことが味わえます
本間ミネ(新潟県)
- ・葉の香りと塩気が絶妙、何より色が
素敵 有島和子(東京都)
- ・近くの市へ婿になった三兄が我家の
冬囲いを取りはずす時みやげに持っ
て来た。桜餅、今は懐かしい
大橋恒次(新潟県)
- ・あの香り、ピンク色、こしあんと大
好き！ 中林恵子(大阪府)
- ・葉ごと食べるようになって止りませ
ん。 仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・道明寺 色彩といい、味といい、春
到来を感じさせるから
石尾曠師朗(東京都)
- ・あんこはツブあんがいいです
本庄準也(埼玉県)
- ・嫁いだ娘も好きだった
長谷川庄二郎(千葉県)
- ・あの香りと優しい食感春そのもの。
ホッとします
寺内 侑(埼玉県)

◆よもぎ餅・草餅



- ・ほんものの桜の葉に包まれた黒あん
桜もち(道明寺) 井原毬子(東京都)
- ・何と言っても桜餅。関西風の「ほし
いい」を使ったアंकコたっぷりがい
いですね 奥那於子(大阪府)
- ・葉のかおり、餡のほのかな甘味、が
わも舌ざわりよく、三拍子揃ってい
る 居原田連星(大阪府)
- ・長命寺のさくら餅
平山千江(岩手県) / 望月哲士(東
京都)
- ・淡いピンクのお餅の色と葉の香りに
春のときめきを感じる
大阿久雅子(埼玉県)
- ・葉といっしょに食べるのが好きです
岩田 信(神奈川県)
- ・自分でつくる桜餅。道明寺粉の選択
が最大のポイントです
今井勝子(新潟県)
- ・緑色まぶしい草餅
檜山とり子(東京都)
- ・いかにも「よもぎ」が入っています
というような手作りの草餅
目黒豊光(福島県)
- ・亡姑が季節になると手作りで送って
下さいました 小川 暘(大阪府)

◆うぐいす餅

- ・母の手づくりよもぎだんご。亡く
なって25年。もう一度母のよもぎだ
んご食べたいですね
小山恵美子(大阪府)
- ・ひな祭りに作るよもぎ餅。あんこ入
りを手作りします。よもぎをつつみ
おもちに入れます。
大鳥居牧子(東京都)
- ・その昔母と摘んでは作った「くさも
ち」です。濃い緑色が自慢でした
池田 岬(埼玉県)
- ・小さい頃祖母と郊外へよもぎ摘みに
行きました。結婚して郊外へ住む様
になりましたが、農薬が心配だと母
に止められました。ほのかな若草の
香りがして大好きです
中山日出子(大阪府)
- ・春の香りを一杯感じられます。
本間 進(新潟県)
- ・摘み立ての蓬を入れた餡入りの草
餅。春がまたという実感の故郷の味
がするよもぎ餅
邑橋節夫(兵庫県)
- ・たつぷりのヨモギの匂いが。よくつ
みに行きました
濱崎祥子(鹿児島県)
- ・麻生の鶯餅 青きな粉をこぼさず食
べる工夫も人それぞれで面白い
古谷 力(東京都)

◆いちご

- ・青黄な粉にむせながら食べる時、春
が来た！。と声に出したくなります
高崎登喜子(東京都) / 金子よし
子(新潟県) / 阿部徳夫(宮城県)
/ 菅原キイ子(宮城県) 岡村君枝
(茨城県) / 菅原茂子(宮城県)
- ・やっぱ「いちご大福」です。
二瓶邦枝(埼玉県)
- ・いちご大福。大きないちごの大福は
大きく口をあけて!!
峯岸信子(東京都)
- ・どちらかといえば辛党なのですがい
ちご大福なら食べたいですねえ
吉村充治(埼玉県)
- ・あまおうの入ったいちご大福。とて
も幸せな気分になります
増田公代(東京都)
- ・いちご味のアイス。もう冷たいもの
が良いです 浅海和代(東京都)
- ・いちごケーキ 緑川禎男(埼玉県)
- ・いちごケーキ。お菓子作りで初めて
作った思い出があります。ちょっと
失敗のところもありましたがますま
ずでした 小澤円梨(静岡県)
- ・雛あられ。あの淡い色合とほんのり
とした甘味に「春」を感じて大好き
です 小林七重(新潟県)

- ・雛菓子 大窪美代子(大阪府)
- ・三月のひな菓子 森 恒雄(愛知県)
- ・雛あられ。母がよく作ってくれました 井上氣海(広島県)
- ・雛籠

- ・濱田イサオ(福岡県) / 星 一子(神奈川県) / 大橋絵代(千葉県)
- ・山形の郷土食 くじら餅 高橋エミ(山形県)

- ・おひな様の時つくる「くじら餅」。義母はとても上手でした



◆チョコレート

- ・チョコレート 中嶋清子(佐賀県)
- ・ホワイトデーに頂いたチョコレートを美味しく大事に食しています 西山知子(岡山県)

- ・チョコレート(酒、洋酒のつまみとしての嗜好品) 有坂馨園(福島県)
- ・トリユフ・チョコ(口今注文中) 有田裕子(北海道)
- ・ロツテ「ラミーチョコレート」 松尾らん(東京都)

◆その他

- ・花見団子 中野勝子(鹿児島県)
- ・花見団子 花より団子ではありませんがうまうまとしてきます 鈴木蝶次(宮城県)
- ・ぼた餅 近藤薫也(千葉県) / 野田明夢(新潟県)

- ・花びら餅 早乙女文子(埼玉県)
- ・黒豆大福です 内河邦久(東京都)
- ・濃い緑茶に運を呼ぶ豆大福。大好き 藤井春三(埼玉県)
- ・お茶飲みながら豆大福。豆が特別好きです 大久保アヤ子(東京都)
- ・柏餅 小石澤英夫(東京都)
- ・柏餅は春のお菓子でしょうか。本物の葉にくるまれたみそ餡がいい。二つ折りの餅にはさまれていた頃がなつかしい 桑原謙一(群馬県)
- ・わらび餅 小島岳青(新潟県)
- ・京のわらび餅 木村誠一(神奈川県)
- ・わらび餅。飛鳥路の茶店での出来たてのおいしさが忘れられません 一瀬正子(埼玉県)
- ・べこ餅 早坂絃司(北海道)
- ・羽二重もち(福井県)
- ・大福。つぶあんが好きです 宇都木安子(東京都)
- ・椿餅あこがれます 山口千鶴子(東京都)
- ・切り山椒もち 白戸麻奈(東京都)
- ・寒中に作った干餅の生乾きのもの 土屋喜雄(山梨県)
- ・レアチーズケーキ 中岡昌太(神奈川県)
- ・天野輝子(東京都) / 中澤寿美(神奈川県)
- ・あんパン。粒あんが表面に黒ゴマが添えてあれば最高です。一口で幸せ イッパイとなります 白松いちろう(千葉県)

- ・しっとり感のある和菓子 高橋登志子(新潟県)
- ・甘いもの大好き人間ですから餡の菓子ならなんでもOKです 和崎治人(山口県)
- ・小豆菓子なら何でも 大場艸月(長野県)
- ・カステラ 五味田幸夫(神奈川県)
- ・チーズケーキとモンブラン 北野耕兵(千葉県)
- ・甘くないケーキ 吉田律子(新潟県)
- ・ウイスキーボンボン 杉浦俊雄(静岡県)
- ・金平糖です。凹凸の形を舌で転がしている角がとれて丸くなりやがて無くなる 井上静夫(栃木県)

富樫和子(山形県)

早坂絃司(北海道)

宇都木安子(東京都)

山口千鶴子(東京都)

中岡昌太(神奈川県)

白松いちろう(千葉県)



今回のアンケートで断トツ一位になった「桜餅」。新潟県北部の城下町、新発田市で、豆を中心とした手作り・素材にこだわった食品を製造販売している株式会社宮野食品工業所の社長、宮野紳一朗さんに桜餅に関するコラムをご執筆いただきました。



株式会社宮野食品工業所 社長 宮野紳一朗さん



*写真提供 株式会社宮野食品工業

西から桜便りが聞こえる季節になって来ました。春の和菓子と言えはやはり「桜餅」。和菓子は五感の芸術と言われますが、「桜餅」はまさに日本を代表する和菓子ではないでしょうか。見た目に季節を感じるだけでなく、もっちりした食感、そして何よりも塩漬けにされた桜の葉っぱのほのかな塩味と独特の香りは、春を感じさせる風物詩になってます。

また、桜餅に関東風と関西風があるのをご存知ですか？ 関東風は向島の長命寺の桜餅が有名ですが、こちらは小麦粉を焼き上げたものを使います。一方関西風は、もち米を蒸かして干した道明寺粉を使います。新潟の桜餅は、やはりもち米どころですので、この関西風が主流になっているようです。

当社の桜餅は、あえて自家製餡の白餡を使用し、道明寺餅で包み上げた桜餅がより桜色に見えるようこだわっています。1月から4月中旬までの期間限定販売となっております。

- ・岩手の菓子、かもめのたまごです 松尾正一(岩手県)
- ・三重県の銘菓「赤福」 村山徳英(埼玉県)
- ・出雲の銘菓「菜種の里」 吉里ひとみ(東京都)
- ・煎餅ならなんでも良い 松田義登(福岡県)
- ・新潟名物「笹だんご」よもぎの香りに春の力強さを感じます 若月理依子(新潟県)
- ・焼いも、おかき類 バリバリの、もちろんいちご大福やわ!! 油谷博子(兵庫県)
- ・ほか

2-3月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！皆様からのメッセージが、私どもスタッフの励みです。率直なご感想や親身なアドバイス、いつもありがとうございます。皆様のお声で、情報誌「喜怒哀楽」がつくられていきます。

- ・温古知新 十月に夫を亡くしましたが徳を積んであきらめずめげずに前を向いて歩いてゆきたいと思います。老いると新しいことはなかなか出来かねますが！
- ・「野蒜俳句会」見聞記 おとなの句会ですね。
- ・『名刹広徳寺のお犬騒動記』感動しました。活動的で心の深い樋浦さん。知って良かった。
- ・類想感のない作品欄となっていて投稿の方も北海道から鹿児島までで飽きない。作品欄が喜怒哀楽欄になってくれば面白いですね。
- ・フォトイックの句、皆すばらしいです。たのしんで読みました。
- ・心に残った作品の文を書くのも楽しみの一つです。作品の一つ一つを念入りに読みます。
- ・詠み人スクランブル 片付けはどなたにとっても永遠のテーマなんですね。
- ・さすが酒処の新潟。「越後のお酒ミュージアムぼんしゅ館」は酒好きの小生には垂涎ものです。
- ・「にいがた文化の記憶館便り 俳優座をつくった青山杉作」昔から俳優座のファンで六本木の劇場にはよく足を運びました。名優のお名前を年代から歴史をふり返る事が出来ました。懐かしい方々ばかりです。貴重な記事を大切にします。
- ・食楽句楽のすすめ「寄せ鍋はお熱いのが好き」岩田桂さんのエッセイの中、俳句にも独特の味があり、ごちそう様でした。
- ・リレーエッセイ「デリーの月」いいですね。映画のワンシーンを観ているよう。他国で見る月はきっと一味違うことでしょうね。
- ・誌を戴く度になにかやさしさを覚えるのですが、二月号は殊更に。
- ・みんな頑張っている。私も気合入れよう。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください！

新潟ぶらり

❖新潟ふるさと村

新潟ふるさと村は、新潟県の観光と土産のプレザンテーション施設。アピール館とバザール館に分かれており、アピール館では観光情報や歴史・文化を紹介、バザール館ではおみやげ・名品が販売され、郷土料理も味わえる空間となっている。

まずはアピール館に。一階は「新潟の情報発信基地」として県内の観光情報を得られる。秋葉区特産のアザレア（西洋ツツジ）がエントランスホールいっぱいには飾られて、出迎えてくれた。充実の観光パンフレットから興味のあるものをいただきたい。奥はアンテナショップとカフェで、県内の新商品をチェックしたり、米粉を使ったスイーツや新潟生まれのドリンクを楽しんだりできる。日本庭園が眺められ、いい場所。



二階から三階は、新潟の歴史・文化・四季を紹介するエリア。注目は雪国体験コーナーで、なんと人工降雪機

があり一年中雪に触れることができるという仕掛け。子どもたちは「これ本当の雪なの!？」と大はしゃぎ。

お腹が空いてきてバザール館へ。二階がレストラン街。海鮮丼や寿司、へぎそば、新潟ラーメン、タレカツなどが並び、目移り…。海鮮丼に決めた。

一階がおみやげ名品販売街で、米、米菓、酒、魚、工芸品など実に様々な商品がお待ちかね。おみやげ選びに少し疲れたら、新潟の食材を生かした飲みものや水菓でリフレッシュできる。

どこも家族連れでにぎわう施設内。アピール館とバザール館の間を抜けた奥にある花畑に行ってみた。風がまだ冷たく、ほとんど人が居ない。花畑はまだ土の色。でも、チューリップの芽が出てきていた。春は、もうすぐ。(菅真理子)



住／新潟市西区山田2307
年中無休・全館入場無料・駐車場無料

出版文化と越後人 1

秋岡 啓子

おかげさまで、今年度も「にいがた文化の記憶館便り」の続投が決まりました。毎号、読者の皆様からのアンケートのお声が、本当に励みになっています。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

さて、日本では明治の半ば以降、近代的な印刷技術の発展とともに、政治的な主張などを広く伝えるための新聞、雑誌の発行が盛んになりました。こうした時代の中で、出版業界および書籍流通業界でさまざまな活躍をした越後人たちを紹介します。

◆大橋 佐平 (1835 - 1901年)

現在、日記や手帳で有名な「博文館」の創業者です (現社名は博文館新社)。「博文館は明治・大正時代に於ける文部省なり」と評されるほど、戦前日本の文化産業を担う大出版社でした。

現在の新潟県長岡市で生まれ、地元で新聞社を起すなど活躍した後、新事業を志して上京したのは1886 (明治19)年、51歳のときでした。翌年、同郷の医学者・小金井良精の斡旋で借りた六畳二間の長屋で博文館を立ち上げます。一部の知識層を対象にした従来の出版界に対して、大橋が目指したのは薄利多売主義による読者層の拡大でした。

その狙いは大当たりし、創業1年で10種以上の雑誌を発行。1895 (明治28)年創刊の「太陽」は、日本の総合雑誌の源流ともいわれ、当時の世論形成に大きな役割を果たしました。また出版のみならず、取次部門として「東京堂」を創設。全国的な流通組織を作り上げることで、「出版王国」たる地位を築きました。

一方、教育にも強い関心を持っていた大橋は欧米視察を経て、図書館設立を構想します。準備を進める途中で亡くなりますが、事業は息子の新太郎に継承され、博文館創立15周年の1902 (明治35)年、日本初となる私立図書館「大橋図書館」が開館しました。

◆増田 義一 (1869 - 1949年)

旅行案内のブルーガイドシリーズなどで知られる「実業之日本社」を創設しました。現在の出版流通でも主流である委託販売制度 (書店が仕入れた商品を、再び取次を通して出版社に返品できる制度) を初めて本格的に導入し、飛躍的に業績を伸ばしたことで出版史に名を残しています。

現在の新潟県上越市で生まれ、地元で教員や新聞記者を経験した後上京し、東京専門学校 (現早稲田大) に入学。首席で卒業した後も財政学を専門的に学ぶため研究科に進みました。26歳のとき恩師・高田早苗の推薦で読売新聞社に入社。経済部記者として渋沢栄一、大倉喜八郎、岩崎弥之助、安田善次郎など多くの実業家たちと親交を持ちました。

記者時代、「実業之日本」という新雑誌を出していた友人の会社を手伝っていましたが、31歳のとき経営を譲られ社業に専念することを決意。社名も「実業之日本社」としました。当時3千部だった発行部数は1年で2万部に激増。その後も新渡戸稲造を編集顧問に迎えて内容の充実を図り、事業を拡大していきます。「婦人世界」「日本少年」「少女の友」「幼年の友」を加えた5誌は「実業之日本社の5大雑誌」といわれ、同類他紙の中で抜きん出た発行部数を誇りました。中でも「少女の友」は路谷虹児や中原淳一の表紙、挿絵で一大ブームを巻き起こしました。

増田は43歳で衆議院議員に初当選し、政治家としても活躍しました。

【企画展示情報】

「出版文化と越後人～博文館、実業之日本社、ダイヤモンド社、第一書房～」

会期：4月7日(金)～6月25日(日)

休館日：4月18日(火)、月曜日(ただし5月1日は開館)



▲増田義一



▲大橋佐平

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。

畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ

人生のセカンドステージを満喫されています。

食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

食楽句楽 のすすめ(13)

青春の「木」ポッキー

岩田 桂

大阪発のお菓子と言えば、ダントツに、あの江崎グリコのポッキーの名前が挙がります。発売後五十年ほどのロングラン・ブランドで、しかも世界標準なのです。すでに百億箱を販売しています。ポッキーの箱を立てて並べると、およそ二万三千キロほどの長さになります。すごいなあ。日本人なら、誰もが一度は手にしたチョコレート菓子ですから、まさにお化けブランドと言えます。しかも多くの六十代、七十代の諸兄もこのポッキーには青春が宿っています。

そのポッキーは昭和四十一年頃に発売されました。そして「持つところあるよ！ポキポキポッキー！」などと、極々、当たり前前の機能宣伝で華々しくデビューしました。

ちなみにポッキー (Pocky) ってどういう意味なのか調べてみました。英和辞書には載っていませんが、「ポキッと折って食べる音に由来する登録商標」だそうです。

このポッキーは極めてシンプルな菓子であることが最大の特徴です。ただ「持つところあるよ」だけのチョコ菓子なわけです。いわゆる無垢な存在だったのです。そのポッキーに「青春」という最強の色と衣を被せる作戦が始まりました。

ポッキーを食べて淋しい花の昼

そして少し色気付いた若者達の間では、こんな会話が囁かれ始めます。

「ポッキーはお菓子じゃないよな！ 美味いとかまずいとかではなく、ポッキーはポッキーであり、こんなモノでなくちゃあいけないのだよなあ！」と、

訳の分からないポッキー評が定着していきます。

しかもポッキーは様々な社会現象をもたらしました。その中から三つの逸話を公開いたします。

(1)、どきどきのポッキーゲーム

太郎とグリ子がいっつも喫茶店の隅でデートをしている。

突然太郎が「ポッキーゲームやらない？」

「ポッキーゲーム？」

「ポッキーゲームっていうのは一本のポッキーを両端から二人で食べていくゲーム」

「でもそれだと最後ぶつかっちゃうよ…」

「うん、まあそれはそうだけ…」

「ポッキーを端からゆつくり食べて行って、先に折ったり、離れた方が負け」

「で、やらない？」

「うん、いいよ」とグリ子がうなずく。

そういうと太郎はさっそくポッキーを取りだし、クッキー部分を口にくわえた。

なんだかよく考えたとすごく恥ずかしい。

おそろおそろグリ子はチョコ側をくわえる。サクサクサクとお互いポッキーを食べ進める。

進むにつれ徐々に太郎の顔が近づく。

そして二人の顔はどんどん

熱くなり鼓動も速くなる。

そうして太郎とグリ子の口が触れる直前になった瞬間、

太郎が止まった。

「ん？」

くわえたまま何で止めたの、と言わんばかり

にグリ子が太郎に視線を送る。

それでも一向に太郎は進んでこない。

でも折ったり、離したりしたら負け。

だから太郎は残りのポッキーを食べ進め、チュツとグリ子の唇に触れたところで止まった。



「えーそれってキスじゃないの？ よしなさい、そんなこと、もう本当に恥ずかしいよ」

とグリ子は真っ赤になって俯いてしまう。

太郎とグリ子の初めての恋でした。うつ、ポッキーって、恋の橋渡しをするんだ。もしかしたら、

そのあなた、身に覚えがあるのではないですか。

(2)、ポッキーはバーに宿る

ポッキーを一〇本ほど氷水に突き刺して、高値で売るバーが破竹の勢いで一挙に増えた時期がありました。酔っぱらって支払いの明細は見なかつたが、三千円は取られた気がする(本当です)。

なぬ、ひと箱一五〇円がバーでは、数十倍に化ける。それにしても氷で冷えたポッキーをマドラーの代わりにして、カクテルやウイスキーを飲ませるとは、言語道断。しかも主婦連からのクレームが来ているとか(まさか)。

しかしバーで啄ばむポッキーは、まるで別の味がする。俺もやっと大人の仲間に入れて、こんなバーでホステスさんと戯れるもんね、とまんざら悪い気がしない。

ボジョレーヌーヴォーポッキーあれば事足りぬ

ところがですね、この氷水ポッキーを家でやると、どうもびったり感がない。どうしてだろうか？と悩みながら、すでに四十年が過ぎてしまいました。やはりポッキーはあの頃の青春の「止まり木」だったのだからか。そう思えば、何とかそんな気がする。

さて最後にとっておきのポッキー情報を公開しますよ。驚かないでくださいよ。

(3)、幻のグリコおじさん

「あのキャラクターのグリコおじさんが、真夜中のグラウンドで、ひとり黙々と、ポッキー棒で棒高飛びの練習をしているそうなの！」などの極秘情報を、諸兄はご存知だろうか。うううう……。見かけたら連絡ください。お願いしますよ。

第8回良寛・国上寺全国俳句大会

来たる9月23日(土)、良寛さまゆかりの国上寺・五合庵で開かれる「第8回良寛・国上寺全国俳句大会」のチラシ兼投句用紙を同封しました。賞や様々な特典もありますので、ふるってご投稿ください。

ポストカード販売しています

本号(91号)に同封したポストカードは「サクラソウ」。春夏秋冬32枚の絵柄が一冊になったポストカードブック(1,500円)、各季節8枚(500円)のいずれも取り扱っております。必要分の切手を同封のうえ、封書にてお送りください。




「東京文芸」に投稿しませんか

俳句、短歌、川柳、詩、エッセイ、掌編小説など、ご自分の作品を発表したい方はぜひご投稿ください。投稿料は原稿用紙3枚まで2,000円。発表された文芸誌1冊を無料でお送りします。送付先 〒185-0035 東京都国分寺市西町4-30-29 TEL・FAX042-575-5764 「東京文芸」降矢政治まで

当社のFacebookあります!

当社はホームページ、ブログのほかFacebookがあります。本や日常の仕事に関する様々なことを定期更新していますので、ぜひのぞいて「いいね♡」を押してみてください。

Facebookもチェック 

第26回にいがた俳句フェスティバル

まだ寒さの残る3月20日、第26回にいがた俳句フェスティバルが新潟県三条市において開催されました。佐怒賀正美さん(「秋」主宰)の講演のあとに行われた句会の席題は「春泥」。参加された約100名の方々は限られた時間のなか、集中して俳句を作られていました。



「抱きしめたい本づくり 実践版」保存版としてお手元に!

この度「抱きしめたい本づくり 実践版」を同封しました。構想や内容はもとより、すべての挿絵に至るまでスタッフ全員参加で作った冊子です。当社はお一人おひとりの人生を本という形にして残すお手伝いをしています。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



スタッフの一言

Q. あなたが食べたい春のお菓子は何か?

木戸 敦子



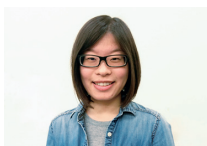
やはり王道「桜餅」。ただ最近年が明けて程なくすると店頭には「桜もち」の表示が。いや待ってウェイト♾️パブロフの犬状態で2月の立春を待ちパクリ、ワン! そこから春が立ちます。

古川 久美子



3月頭から、「桜餅」が食べたいと言い続けている。あの桜色に心惹かれますな。あとは、お彼岸には牡丹餅でしょうか(おはぎじゃないよ)。

菅 真理子



草餅、ぼたもち…と迷いますが、やっぱり桜餅。あの香り、うっとりします。葉も一緒にいただく派です。道明寺になじみがありますが、長命寺もいつか食べてみたい。

木伏 美恵



桜餅といちご大福です。桜餅はあの塩味と香りが大好きです。いちご大福も甘い餡と甘酸っぱいいちごがたまりません!

上村 真智子



毎大福! 桜餅! わざわざ買っては食べないが、いただくと喜び勇んで食べる。巡り合わない年は食べずじまい。昔、柴又で寅さん気分食べた草餅も江戸川の風景とともに思い出深い。

金子 ゆり子



春は地区の祭で例年、草餅を食べているので食べたくなります。以前、姑が作ってくれた草餅が懐かしい。美味しかった。

石山 由希子



お彼岸が好きなのは「ぼたもち」があるから。スーパーで買っていますが、枝豆をすりつぶした「ずんだ餡」も一緒に並んでいます。ぜひ皆様も…あっ枝豆は春じゃなかった!

吉田 瞳



母が高校合格の日にお祝いで買ってきてくれた桜餅=春のお菓子になっています。桜餅をみるとあの当時は思い出し食べたくなりました。

山田 千秋



春の卒業式で配られた紅白饅頭です。つやつやの饅頭の表面に「祝」と焼印されたものが箱に並んで入っていました。校門の景色と一緒に思い出します。



若鶏もも角切り

岡田幸生

桜咲く季節、足取りも軽くスーパーへ。春らしい店内の描写が、テレビカメラを回すように作者の視線で語られる。うんうん、そうだよねと追体験。そして…ええっ！！！ どうぞ、最後までお読みください。

先ほどニュースの中で「肅清」という漢字の表記が誤っておりまして——とテレビの女が頭を下げ、「○肅清 ×肅正」とテロップが出た。やれやれ。だが同情の余地はある。ちよつとしたミスに違いない。かな漢字変換はほとんど誤らないし、だいたい「肅清」は使いでのない語彙だ。まあ、だからこそ目を配らなければならぬのだから（ともあれ、きな臭くなってきたものだ）。

それはそれとして、腹が減る。なぜ一日に三度も食べなければならぬのだ。三日に一度で済むなら、どんなにいいだろう。食事はもつと聖性を帯びるだろう。料理は手厚いものになるだろう。あるいはおざなりになるだろうか。いずれにせよ、腹は減るのだ。うらかな日和につられて、僕は近くのスーパーへ出かけた。

店内は明るんでいた。ビールも春の装いだ。宇多田ヒカルの「SAKURAドロップス」が流れている。思い出とダブる映像、秋のドラマ再放送——と切ない声だ。曲名は「サクマドロップス」がかけてある。舐めようか。お、おう。買おう。

お菓子売り場へ。このあたりで、ここの店員とぶつかったことがある。ラミー（ロツテの冬季限定チョコレート）を探していたときだから、半年ほど前だ。正面衝突。弾力のある肉体を、僕は文字通り胸で受け止めた。筋骨たくましい青年だった。鉛筆の芯のような匂いがした。そうす、大学で陸上の短距離やってたんす、とか言っってはにかんでいた。彼が店長だと知ったのは、あとのことだ。

サクマドロップスは品切れ。チョコベビージャンボをカゴへじゃらんと入れた。豆腐と納豆も買う。これらが家の冷蔵庫庫にあれば、とりあえずなんとかなる。でもそれだけでは持たない気分。肉欲だ。肉が欲しい。

桜・桜・桜肉——とにぎやかなポップがある。手書き文字に近いフォント。馬肉だ。どこから仕入れたのだろう。店長おすすめ品——とオレンジ色の光を浴びているのは、国産若鶏もも角切り。出血価格だ。これにしよう。トレーパックを奥から取る。

きょうはカレーにしよう。一度にたくさん作って、何日もかけて食べよう。カレーは裏切らない。ポークカツで二上山へ行つたのは、小五のときだった。みんなで大鍋に切つてまぜ、バーモントカレーのルーがぜんぶ溶けるのもどかしく、ニンジンなんてまだ生煮えだったけれど、あのときのカレーライスのおいしかったことといったらなかつた。

帰り道、川沿いの桜並木が美しかった。満開だ。腹が減るのは悪いことではない。健康の証しだ。食べるのは楽しい。そして作ることは気晴らしになる。

若鶏もも角切りのパックを開けようとして、僕は凍りついた。ラベルの商品名称が店長だったのだ。そういえば、しばらく彼を見ていない。大きいマスクをつけ、今年になって花粉症になったんす、とか言いながら咳いていた店長……もちろん、ちよつとしたミスに違いない。しかし僕の胃腸は、それから肉という肉を受け付けなくなりました。

●プロフィール

1962年 富山県氷見市生まれ。

2000年 「短歌研究」臨時増刊「うたう」作品賞入選。句集に『無伴奏』（私家版）。

編集後記

弥生尽。会者定離、会うは別れのはじめなり、さよならだけが人生さ。人それぞれ涙腺がゆるむツボはあると思うが、抗えないのは子どもたちが口を大きく開けて元気一杯歌う姿。この子たちの未来はどこにつながっていくのか。幸多い人生であってほしいと願うのは、そうばかりではないと知ったからか。この度、若者が中心の句会にお邪魔した。これからいろんな未来があるだろう。未来はどうであっても、今のあなたと数年後、数十年後のあなたは間違いなく一本の線につながっている。今が未来で未来が今だ。無駄なことは一つとしてない。今この時をいつくしんでいきたい。(木戸敦子)

2017.4-5. vol.91 (2017年4月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

0120-819-395

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション